

質問 5-2 計画高水位を超える洪水は、各地で発生しています。耐越水堤防は、技術的に確立されていないと言われてはいますが、一方で、ダムを建設できる河川は限られています。こういう河川では、可能性が少しでもあれば、破堤の危険性を回避するために耐越水対策の堤防補強を実施すべきではないでしょうか。

- 計画高水位以下の流水の通常的作用(水は天端まで達する)に対する堤防強化を行うことにより、堤防の強度が全体として増すことから、決壊による氾濫が生じる場合でも避難時間の確保に寄与します。

### 河川整備計画原案において実施する堤防強化

**安全確保のために淀川で行う粘り強い堤防への強化**

- ・ 堤防強化は極めて大切なことであり、うねり等により天端まで水が達することを前提とした堤防強化を緊急的に実施
- ・ 確実な効果は期待できないが、合理性がある範囲で積極的に越水に資する対策を実施

淀川水系の標準的な堤防強化

淀川本川	約32km	約190億円(実施済を含む)	今後概ね5年間で完成
支川緊急対策区間	約22km	約170億円	(今後概ね10年間で完成)
支川(上記以外)	約43km	約470億円	(今後30年間で完成)

- 越水対策は技術的にも未解明であり、構造や費用対効果も確立されていません。洪水を川の中で安全に流す対策の代替として、越水対策を選択するというのは間違いであり、ダムを建設することができず河道掘削や川幅を広げることも困難な河川においても、貯めると流すを組み合わせる洪水を川の中で安全に流すための対策を実施していく必要があります。

- なお、少しでも強い堤防にするため、堤防の天端舗装など、越水にも資する工夫も、あわせて実施することとしています。

(関連資料)

- 平成 20 年 5 月 13 日 第 78 回淀川水系流域委員会 審議資料 1-1-2  
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#78th>
- 平成 20 年 5 月 27 日 第 79 回淀川水系流域委員会 補足説明資料  
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#79th>
- 平成 20 年 6 月 3 日 第 80 回淀川水系流域委員会 補足説明資料  
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#80th>
- (社)土木学会による「耐越水堤防整備の技術的な実現性の見解」について  
淀川河川事務所ホームページ  
[http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/news/news\\_detail.php?id=397](http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/news/news_detail.php?id=397)

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。